

〈住みにくくなった都市気候〉

市の中心部の人口密度は 400 人 / ha であるが住区としては極端に密度が高いわけではない。しかし大部分が平屋なので住宅密度が高く、非常に密集した印象を受ける。

以前は住宅密度が高い割には風通しに恵まれていたという話をよく聞いた。しかし 1970 年頃（復帰前後）を境にして、この平屋住宅群の中に中・高層のアパート、事務所、ホテルなどが建って通風が悪化し、特に夏が過ごしにくくなった。

都市気候の測定の実施

気温は市全体の緑地率、宅地率のようなどちらかというミクロな環境に影響され、風はその場その場のミクロな環境に影響される。

そしてこの都市環境の悪化は、平均的・一様に環境が悪化するのではない。例えば中・高層の建物ができることによって、その建物に住む人には風通しが良くなって、周辺の低層の平屋に住んでいる人には風通しが悪くなるというように甚だ不公平が生じる。

都市の自然環境 社会的・経済的関係の反映

都市が創る環境弱者

『亜熱帯都市気候の特性』

那覇は本来しのぎやすい気候

住みにくくなった那覇

都市微気候の解明

大気拡散の状態

提案

自然環境の重視とその積極的な利用

- ・ 風と水の重視
- ・ 風道作り
- ・ 歩きやすい街づくり
- ・ 亜熱帯の公園づくり

『都市で群れて住む意味』

今もある不良住宅街

意外な結果、住みやすい不良住宅街

住民にとっての住みやすさとは何か

都市再開発「文脈的方法」と「戦略的方法」

提案

- ・ スージグワール・テリトリーによる共生空間
- ・ ムラヤ（字公民館）の都市機能的復元
- ・ 建築的手法による「共生空間」

〈守りやすい空間〉

- ・ J.ジェコブズ

米国、スラムクリアランス～目の届かない空間。

高層住宅団地 犯罪件数の増加。

再び作り直すために爆破されてしまった。

居住者が潜在的な領域感と共同意識を持っており、かつそれを安全で生産的で良く保全された環境を、より確実のものにしようとする責任感にまで発展することができるような環境をいかにしたら創り出せるかである。

行政などによる地域の外からの見方が、地域を管理対象としてしか見なさないことによって、地域住民の自主的な結集を否定し、住民を個々ばらばらの「私人」以上のものとは見なそうとはしない。こうなると住民はひたすら「ゴネどく」を決め込むことになり、行政を含めた管理者がいわゆる「住民対策」に躍起になるという悪循環に入り込むことになる。

こうした悪循環をもたらす「公」と「私」の対立の代わりに「共」、そしてこれは「私」の積み重ねによって成立する、という観念を確立させれば、かなり問題を解消することができる。

この「共生空間」が成立し、それが働き続けるためには、小単位であることが重要である。

Response Responsibility

〈スージグワー・テリトリー〉

那覇市の都市問題の多くは、高人口密度に起因している。しかし「文脈的方法」と言われる都市づくりの視点に基づき、守りやすい住空間、共生空間の創造から見ると、この高密度を逆に利用して那覇市の都市問題を解決し、高密度都市の特性を引き出すという発想があり得る。

今までスージグワー（筋小、路地裏）を通して成り立ってきた質の高い、高密度なネットワークを断ち切ることなく、むしろそれを支えていくような都市整備が必要なのである。

そしてこれは沖縄の伝統集落に見られる基本原理である「共に住む」システムとしての町レベルでの仕組みを意味する。この「スージグワー・テリトリー」は同じ地域に住む人々が共通して、ある一定の空間領域を共有していると意識ないしはイメージすることによって初めて成立する。

この「スージグワー・テリトリー」の中に、都市を形成する基本原理が埋め込まれていて、この原理を地域の回復に新たな型で活用することができないだろうか。